

# 「昭和の遣唐使」

## 海外視察団派遣〈上〉

■周到な事前準備 なのは海外視察団の派遣

日本生産性本部の初だった。

年度（1955年3月 先陣を切ったのは55

56年3月）の事業計 年5月31日、羽田空港

画は、▽視察団の派遣 からアメリカに向けて

と講師の招へい▽科学 飛び立った「鉄鋼視察

的管理法式および諸訓 団」だ。団長は富士製

練の徹底、普及▽企業 鐵取締役の佐山勲一。

に対する直接指導▽啓 メンバーは経営者だけ

蒙・宣伝——が四本 ではなく、労働組合幹

柱。その中核をなした 部も含め計11人。目的

鉄鋼視察団の報告書。B5判228ページに及ぶ（1956年11月初版発行）。



後に発刊された報告 6週間。これは英国 回目の報告書を提出。

書の「序」によると、日 生産性視察団を受け入 そして、ICA係官の

本鉄鋼連盟会長が会員 れた実績の中で練り上 司会で評価会を開催。

会社・労組からの推薦 げられた周到かつ効率 これが終わってはじめ

を踏まえ団員を任命 的な視察方式だった。 て団は解散となった。

し、団の編成を終えた 視察団がサンフラン 10年間で6072人

のが3月上旬。視察団 シスコ空港に到着する 派遣

の最初の会合は3月18 と、ただちにICA派 鉄鋼視察団はアメリ

日に行われ、以後、5 遣の案内者と二人の通 カの西海岸から東海岸

月上旬までに6回の会 訳がつく。訪問先での まで企業や労働組合、

合を重ね、国内5工場 質疑応答は二人の通訳 政府機関などを訪問。

も事前視察。調査項目 による同時通訳によっ 中でも視察団が注目し

を詳細に作り上げたこ て行われた。 たのは、①経営管理組

とが記されている。 日程が半ばを過ぎる 織が合理化されている

視察日程はICA ころ、視察の感想を報 こと②インダストリア

（米国国際協力庁）作成 告書の形で提出。日程 ル・エンジニアリング

のスケジュールに沿っ が全部終了すると第2 部の活用③コントロー

ラー制度（予算統制、

原価管理、内部監査等）

の確立④市場開拓への

努力⑤良好な労使関係

——だった。

海外視察団の派遣は

10年間で延べ568チ

ーム、6072人に及

び、「昭和の遣唐使」

とも呼ばれた。

（文中・敬称略）

【参考文献】『生産性

運動10年の歩み』（日

本生産性本部、1996

5年）、『生産性運動

50年史』（社会経済生

産性本部、2005年）